

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和1年5月30日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4671200378
法人名	有限会社 グッドライフ
事業所名	グループホーム てんとうむし
所在地	鹿児島県霧島市国分上井903番地2 (電話) 0995-47-4672
自己評価作成日	平成31年3月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL <http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和1年5月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

てんとうむしは開設者の生まれ育った場所にあるため、近隣住民の方はホームが開所した当所から協力的であり緊急時には速やかに支援できるようにホーム内の構造を見たり車椅子を操作方法を教えたりした。地域との交流もあり老人クラブからのタオルの寄贈、それに対するお返しに草払い時のお菓子の差し入れをしたりしている。平成30年12月は運営推進会議の一環として地区公民館で地域住民や家族を対象にAEDの使い方や心肺蘇生法の勉強会を消防署を呼んで行ったりした。又野菜を持って来られる方もありたくさんの大根はスタッフが切って利用者が干して切干大根を作ったり料理に使ったりしている。地域の行事への参加の呼びかけも館長さんがしてくださり、神社への灯籠を飾ってもらったり見学に行くとカキ氷を下さったりして利用者も楽しみにされている。利用者のご家族においては家族関係者を次々紹介してくださったりされ良好な関係が構築されている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は地区コミュニティ広場の近くに位置し、近隣住民は協力的で、緊急時の対応を支援できるようにホーム内の構造を見学したり、老人クラブとの交流もあり地域に根ざしたホームである。
- ・地域との関わりを大切にして、地区運動会や神社の祭りには灯籠に手形や字を書いて献納している。老人クラブからタオルの寄贈や、草払いの時はお菓子の差し入れ等して日常的に交流がある。ゴミ収集時の清掃に継続して取り組んでいる。
- ・運営推進会議の中で地域住民と利用者の家族を対象に救命講習会を実施している。公民館長や住民の協力がある。
- ・事業所は認知症の相談や理解を発信して高齢者福祉に貢献している。
- ・利用者の家族関係との連携も厚く、高齢者の情報を紹介してくれるなど信頼を得ている。
- ・食生活に味噌作り、あくまき作り、家族同伴の夕食等、楽しみのある取り組みがあり、利用者のメリハリのある暮らしを支援している。
- ・消防署主催の救命救急やAEDの取り扱いについて、職員は地域住民や家族とともに研修し、災害時の対応を地域と連携や協力関係が構築されている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	ホームと法人名の由来がそのまま理念になっている。スタッフの採用時は名前の由来と理念について説明し理解を得るようにしている。	理念を中心に「スタッフの願い、介護の姿勢」をてんとうむしに例えている。廊下に掲げたりパンフレットに掲載し、日常的に職員間で理念を問いかけ、気づきを共有し、ケアの実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加している。公民館からも事前に行事の日程を教えてもらったり老人クラブとの交流も図っている。	当ホームは運営者の出身地でもあり、地域住民とは親しい関係にある。自治会主催の運動会や神社の祭りには、灯籠を作成して飾ったり、ゴミステーションの清掃は継続して取り組んでいる。老人クラブとの交流や近隣から野菜の差し入れもある。音楽療法ボランティアの訪問を受け楽しんでいる。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地区内の住民と利用者の家族を対象に消防署にきていただいで救急蘇生法の勉強会や他地区の要請で認知症や施設の説明を行った。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議内において行事報告として状況の把握がしやすいように写真を入れ込んでいる。評価についても委員への配布や説明で意見を取り入れるようにしている。</p>	<p>会議は2ヶ月毎に開催している。入居者の状況や施設の運営・行事の実施報告・地域の行事連絡・救命講習会の実施・避難訓練等の報告をしている。感染症予防の取り組みや高齢者虐待防止・身体拘束廃止の研修会に参加して報告を行っており、意見はサービス向上に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議への出席でホームの取り組みを伝えている。行政担当者は他事業所への会議にも出席されておりそこでの会議のあり方も助言いただいている。</p>	<p>市担当職員にはホームの運営状況の理解や取り組みを伝え、日常的に電話で相談や助言を貰っている。運営推進会議にも参加を得ている。市の健康福祉祭りの会場の設営や当日の役割等、協力している。市主催の研修会等に参加して協力関係を築き情報を得ている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束廃止等の適正化のための指針を整備しその指針を参考に定期的に勉強するようにしている。危険行為のある方にはセンサーを使用しなるべく身体拘束のないようにしている。</p>	<p>身体拘束廃止委員会の研修会を3ヶ月毎に開催し、言葉の拘束も含めて勉強会を行っている。日中は玄関の施錠はしていない。外出したい様子の時は話しかけ寄り添って、拘束しないケアに取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修があれば参加し勉強の機会を持つようにしている。ホーム内での生活において虐待と思われるような事案はないと考えるがそれは受け手によって感じ方も違うので互いが注意していきたい。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	必要な事例が発生した場合には関係機関や家族と協議し支援するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時には必ず契約書や重要事項説明書を見てもらいながら説明し何かわからない事はないかを確認しながら行っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族の面会時には基本的にお茶を出して家族とコミュニケーションが取れるようにしている。カルテは希望すればいつでも見れるようにしており意見を聞けるようにしている。	利用者には日頃の生活の中で思いを聞き把握している。家族からは入居時や面会時に、意見や要望を聞いている。日常生活についての利用者の状況は、家族の要請があればいつでも紹介している。そこでの意見や要望は運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議内でスタッフからの要望はないか必ず聞くようにしている。要望については改善できる事項は可能な範囲で改善したり購入したりしている。	職員とは職員会議や休憩・お茶の時間に意見や提案を聞いている。要望として街灯の設置や洗濯物の乾燥機購入等、意見や要望は運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	スタッフからの勤務条件等の相談があったら事業所で可能な範囲内で検討したりしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力やレベルに応じた研修に行ってもらったり事業所内での研修では研修担当者を決めて役割意識を持てるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は同業者との交流の機会を持つ機会に恵まれるがスタッフは交流の機会は少ない。連合会内のスポーツ交流会への参加も希望しない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>サービスを開始する前に本人にホームに遊びに来ていただけないかを相談し話を多く持って安心して来れるようにしている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>電話での相談や施設の見学時に家族からどのような事に困っているのか聞き安心して預けることが出来るようにしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>話の内容で小規模多機能型や有料ホーム、軽費等紹介したり必要に応じて見学に同行したりの支援をしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者同士が助け合ったり話に夢中になっている時はその場の空気を壊さないように見守っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	サービス計画書を作成する時には必ず家族も参加してケアをしていくようにプランを作成し説明をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は特に家族の制限要望がなければ自由に面会していただいている。	アセスメントからや日常の関わりで馴染みの人や場との関係を把握している。友人や知人・関係者の面会がある。お茶を出してゆっくりしていただいている。年賀状の支援もしている。家族の協力があり墓参りやお盆の帰省・外食等、馴染みの関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がお互いに助けたり助けられたり出来るように危険の無い範囲で見守っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近隣の方であれば時々家に行って様子を見たり料理を差し入れたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時には、家族や本人の生活のリズムや意向を聞きなるべくその意向に添った支援が出来るようにしている	入居時や日常の生活の中で言葉や表情・態度から思いを把握している。家族からも情報を聞いている。誰かの役に立ちたいとか、洗濯物たたみやお茶出し等の思いがある。不穩の時は寄り添っている。好みの梅酒や嗜好品に配慮して対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	相談時や入居時等家族や本人から今までの生活の様子を聞いたり入居前に利用していた関係先のスタッフ等から情報を得たりしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の情報と入居間もない時点での観察で得た情報を検討し本人が持つ力が発揮できるようにしている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時においては家族や本人関係者からの情報と意向を確認しプランを立てている。その内容については本人と家族に説明し同意を得ている	入居時に本人・家族の意向を聞いて、主治医の意見を入れて、介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月で行い、変化があった時は、その都度見直しして、現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の日常の様子は個人カルテに日勤帯、夜勤帯と分けて記入している。その中で大切なことは申し送りに記載しスタッフが把握できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や本人の状況に応じて本来家族がすべき事項をホームが家族の了解を得て代行したりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の行事に参加したり作品を出品して利用者が少しでも地域に関われるようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者それぞれにかかりつけ医があり訪問診療や必要に応じて受診してもらっている。診察時はスタッフが立会い情報の提供や指示をもらうようにしている。	かかりつけ医は、今までの医療機関の継続にしている。訪問診療機関があり管理者が立ち合っ家族にも報告している。定期的な健診は家族が同行している。体調に変化があった時は、管理者が対応して適切な医療を受けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中であらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>日常の変化や様子については管理者に報告し状況に応じては受診の支援や往診依頼をしている。訪問診療時は可能な限り管理者が立会い必要な情報を伝えている</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時はホームからの情報提供を行い、入院中でも病院からの病状説明時は家族と一緒に立ち会ったりしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>訪問診療時には家族も立ち会っていただき主治医から延命行為についてや終末期の家族の意向を確認していただいている。又ホームでできる事、出来ないことを説明し誤解が生じないようにしている</p>	<p>重度化や終末期に向けた指針を入居時に説明し、同意を貰っている。症状の変化に伴い、主治医・家族・職員で話し合い、家族の意向を確認しながら対応している。家族の希望で家族の協力があれば看取りを行っている。看取りの事例がある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>マニュアルを準備しいつでも確認できるようにしている。心肺蘇生法も受講の機会を作っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2回の避難訓練を行っている。緊急時には近隣の支援がもらえるように連絡網を整備している。</p>	<p>年2回避難訓練を行っている。1回は消防署立ち合いで行い1回は自主訓練である。通報や避難場所・避難経路の確認をしている。緊急通報連絡網も完備している。防災設備は業者が定期的に点検して消防署に届けている。備蓄は水・レトルト食品・乾麺等を用意している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格に応じて声かけしたり声掛けの内容を変えたりしながら対応している。	必要に応じて、研修を実施している。利用者の状況に応じて対応することを話し合っている。言葉かけや入浴介助・トイレ誘導等に気配りして、誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の機会を持ち自分の意見を言いにくい方には「はい」「いいえ」で意思を伝えられるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時にはデッキでお茶を飲んだり食事をしたりしている。その際も「どうしますか？」と本人の希望を確認している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	あまりにもちぐはぐな場合を除き本人がしたいようにしてもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>咀嚼や嚥下能力に応じて細かく切ったりミキサーを用いて食事ができるようにしている。希望があれば一緒に茶碗を洗ったりしている。</p>	<p>一人ひとりの食事の形態に合わせて普通食・とろみ食・ミキサー食に対応している。嗜好に合わせて旬の食材を使用している。味噌も手づくりを使用している。野菜の下ごしらえや下膳等を職員と一緒にしている。誕生会はケーキを作り、行事食はおせち料理・クリスマス会等、変化のある食生活を提供している。あくまき作りも行っている。ベランダでお茶や食事をしたり、家族会は、弁当持参で出かけている。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>水分摂取量がわかるように表に記入している。お茶だけでなくコーヒーや高カロリー飲料を提供し水分がとれるように支援している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後には義歯洗浄を行い毎日可能な方は入れ歯洗浄剤に浸けて清潔を保つようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時、随時トイレに誘導している。本人の失禁の状態では紙パンツや尿取パットを使用し夜間においては転倒防止の事もありポータブルトイレを使用し、なるべくオムツを使用しないようにしている。	排泄チェック表を活用して、声かけをしてトイレ誘導している。できるだけトイレでの排泄ができるように支援している。夜間のみポータブルトイレを使用している利用者もいる。パット類の介護用品は個々に合わせて使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状況を確認しながら食事に野菜を多く使用したり水分を多く取っていただいたりしてなるべく自然排便が出来るようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	概ね入浴時間は決まっております。その中で順番を入れ替えたりしてスムーズに入浴できるようにしている。又、失禁による汚染状況によって入浴日を変えることもある。	入浴は一日おきを目安にしているが、健康状態や安全面を考慮し、体力的に弱い方は週に1~2回で対応している。足浴・清拭・シャワー浴も対応している。一人ひとりのタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調や様子を観察して臥床してもらったり本人が希望して臥床しているときは臥床しすぎないようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を必ずもらっている。薬が変わったときは主治医や薬剤師からの注意事項を申し送りに記載している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コーヒーが好きな方にはお茶の時さしあげたり洗濯物を干したりたたんだり、花を生けてもらったりしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	家族と一緒に食事に行ったりその際はホームの車を貸してあげたり送迎をしたりしている。時にはスタッフが用事で外出の時連れて行ったりしている。	敷地内の散歩や職員の買い物の時に一緒に出かけている。高齢になり全員一緒に外出支援が難しくなっている。家族の協力で墓参りや外食・自宅訪問・外泊等、馴染みの場所に出かけている。場合により送迎支援も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額のお金を所持しておられる方はいるが使う環境にはない。必要なものはホームで立替購入し家族に請求するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>自身の携帯を持っている方がいる。外部からの電話には本人と話をしてもらっており特に制限はしていない。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節に応じてエアコンを使用したり肌もちの良い時期には窓を開けて風を通したりしている。利用者が生けた花を飾ったりしている。</p>	<p>フロアは天窓があり、天井が高く木の温もりがある。一角に畳のコーナーがある。空気の入替えをしたり、室温・換気に配慮し、床も水拭きして清掃が行き届いている。壁に季節感のある作品や写真が飾ってあり、生花が活けてあり落ち着いた雰囲気である。自由に出入りできるウッドデッキは、お茶をしたり多目的に使用でき、居心地良く過ごせるように工夫されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>時にはソファに座って外を眺めたりウトウトしたり利用者同士であったり、スタッフと利用者二人で話したりされている、</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家具の持ち込みがあったりぬいぐるみや写真を飾ったりされている。</p>	<p>居室は洋室・和室がありエアコンやクローゼットが設置してある。掃出し窓になっている。家から持ち込まれた寝具やテレビ・暦・位牌・家族写真・時計・ぬいぐるみ等が置かれ、居心地よく過ごせるように工夫されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>自分の部屋の入口に写真を貼ったり窓ガラスにぶつからないようにシールを貼ったりしてその時の利用者の状況に合わせて工夫している。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない